

Kodansha Comics A

高橋 脩

Original
Character
Design

5

ISUCA

— イスカ —



I S U C A

Osamu Takahashi Presents

目次

第貳拾漆話	攻防①	113
第貳拾捌話	攻防②	121
第貳拾玖話	攻防③	147
第參拾話	幕間	177
第參拾壹話	修練①	183
第參拾貳話	修練②	125
番外編	番外編	159



ISUCA

[イスカ]

高橋 脩



準備はいい？

浅野くん
タマ子ちゃん

はい

あたしはいつでも
平気だニヤ



風邪ひきの體弱に
やらせるわけにも
いかないし

あいつの代わりには
ならないですけど



今日は
ありがとう

本来、部外者である
あなた達にこちらから
お願いするわけには
いかないし

正直助かるわ



シンイチロ
どう?
おにゅーの服

ナデシコに
買ったの

あ...ああ

いいんじゃないか...?



先生...

妖魔と戦うなら
このくらいのが
動きやすくて
いいでしょ



先生って
こすいう服
どこで手に入れて
くるんですか?

自分で
選びたいの!

あーいっ



ニヤー!

シンイチロに
褒められた!



今日は
がんばる
頑張るニヤー!

だから
下着は穿きなさい
……



忘れてただけ
ニヤ……

くすくす

……さて
それじゃ簡単に
扶源を説明
するわね



現在、横浜から
鎌倉にかけて
10箇所あまりで
①の出現が確認
されています

一つ一つは比較的
小さいんだけど
全部を塞ぐには
今夜未明までかかると
思われるわ

浅野くん達には
そのうちの一つへ
向かってもらい

結界内の監視
および出現した妖魔の
討伐をお願いします

はい



①の大きさからして
出現するのは下級妖魔に
限られると思うけど

時間的に機動的な
結界しか張ることが
できなかったから
万が一にも結界が
破壊されないよう
注意して

分かりました





先生

結暮の嫁子とは？

いまは
寝てるわ



さっき薬を
飲ませたから

朝までは
ぐっすりの苦よ



それでもしないと
絶対、駆けつけて
来るに決まってる
もの

…ですね

…あの責任感の
強さは父親様なの
かしら



朝霧のお父さん？
そんな責任感の強い人
だったんですか？

そうね…

時春様は…
とても真面目で

不自由な人
だったわ



御耶様とは
まるで正反対



先生？

さお話は
ここまで

行きましよう
時間が無いわ

他の皆は
もう始めてる
頃よ





こっちは大丈夫です

あー君が頑張ってくれてます

だからその呼び方はやめろ…!!



茉莉

はい!



電話を切るのはいいボタンでいいのよね?



須世瑠璃こそをその携帯電話の使い方覚えましょうね

ごめんなさい
瑠璃は言手で



それより須世瑠璃こそ一人で大丈夫ですか?

やっぱり私もそっちに行ったほうが

平気よ
茉莉は阿佐藤の手伝いをしてあげて

それじゃ





ぞんぶん
存分ニ俺ノ
力ヲ使エ

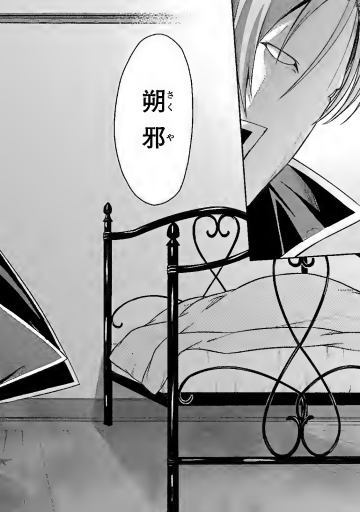
我が主ヨ

すごい力

これが私の
式神



朔^{さく}
邪^や





寂しい思いを
させてごめん

もうすぐ
だから――



お父様——
とうちやま

第貳拾漆話
了——

今の……
いま

夢……
ゆめ





家から一番近い
（門）の場所を先生に
教えてもらって
来たけれど――

朝霧城きだと
やっぱキツイ
……

く……う





はいニヤ!

タマ子
そっち頼むぞ!



ニヤ!?

また
増えた!?











やうに
最高だニヤ
この服に

エ
エ
...



おまえらが
100匹いたって
負ける気しない
ニヤ

タマ子の奴
張り切ってるな

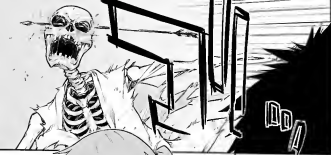


他^もも^うた^らい^いを
使^いな^せば



あ……

しまった



さくや
朔邪!!?



寝てたはず
じゃー

おきま…何で
さうなの



この
バカ!!



何事かと
思ったわよ!

目が覚めたら
誰もいないし

よくもあたしを
置いていったわね!!

すまん……

しかもあんたの
服帯にかけても
つながないし

あちこちかけて
やっと帯が
つかまったから
洗いざらい
吐かせたわ

よくもこんな状況で
あたしをのけ者に
してくれたわね

タマ子

……何でサウヤが
ここにいたニヤヤ

ト……

その姿に
なってるって
ことは――





今は真一郎を
問い詰めてる
場合じゃないわね



他の気配は
無い……

とすると
他の門に――

朝野？

真一郎
タマ子

速攻でケリ
つけるわよ

ニヤ？



こいつらは
おたしとシンイチロの
怪物ニヤ

ひんめーは
すっこんでるニヤ

タマ子



たぶん...

いやきつと

お父様が
近くに
いる



え...?

感じたのよ

あの手の感触
昔と同じだった



今はあんたの
相手してる暇は
無いの

朝邪

それって一体

話は後！

まずはこいつらを
片付けるわよ！！

複数の「門」の
同時発生

普通なら
もっと早くに予兆が
表れる筈
なんだけど

やはり何者かの
干渉があったと
みたほうが――

あーはい
もしもし

先生ですか？

ああ風かった
やつと熱がった

そっちの状況は
どう？

こちら
馬鹿猫！！

もつと敵を
一ヶ所に集めて

サクヤは
いちいちうるさい
ニヤ！

ちゃんと
やつてるニヤ

明那？

そこに明那が
いるの？

はい……其は

呆れた……
一晩はぐっすりの
寝だったんだけど

よしタマ子
どきなさい！

うう……

猫使いが
悪いニヤ……

たまたま



おっ
おっ
おっ



島津流
弓術
——



むふふ
あ
叢雨!!



いまさら僻地に
帰れといっても
きかないでしょうし

他の場所へ
応援に行っても
もらえない？

はい



すげー！

どうやら終わった
みたいね



ふふ
その様子だと
具合はもういい
みたいね

………
言いたいことは
いろいろあるけど

今は一つだけ



一番大きな
門の出現地点を
教えて



撫子!!

あ……

よくもこんな
大事なこと
あたしに黙ってた
わね！

あら
おはよう



それを聞いて
どうするの？

決まってるでしょ
行くのよ！

その妖魔を
あたし一人で
対処する



悪いけどそこは
須世嬢に任せてる
から

それに
そこからじゃ
遠いわよ

そんなの
関係ない！

……お父様が



お父様が
いるかもしれない
の……



あ……そうか

だとしたら

やはり朝比奈が
結んでいるか

彼奴ら……
昔からやる事が
変わっておらん

それで撫子
今回の件
どう見る？

はい
今回の件に
時――

朝比奈家が
関わっていると
したら

これらの門は
周辺地域の
次元を不安定化
させる為のものでは
ないかと

目的は？

より巨大な
門の顕現
……でしょうか

うむ

要諦を
判断だ

その場合の
出現予想地点は？

断定はできませんが
いま出現している
門の配置からして

恐らくは
この辺り

保土ヶ谷から
三ツ沢の近辺

沙羅

いま家には
どれだけ残ってる？

家の守りに
10人ほど

三ツ沢の家に
近いな

それを全て
現存する門へ
回せ

これ以上
次元の揺らぎが
広がらぬように

ですが
それでは母上の
警護が――



あ



問題ない



いけません

母上自ら
など――

だがそうせねば
人手が足るまい

わしも出る



奴の真の狙いは
このかしよ



それに

第拾捌話
――了――











な…なんだ
あれ――

間違いないわ
あれが目指す^①よ
あんな大きいのは
あたしも初めて見るけど

あれだけの規模だと
霊力のない人にも
知覚できるように
なるのは時間の問題ね

きっと
あそこに――

あ…っ

お父様



八年前の
あの日



あれが最後に
なるなんて思いも
しなかった

会って聞きたい
どうして帰って来て
くれなかったのか





久しいの



ミイルダーナと
呼ばれています



いや先日家で
ちらと見たか

時香……
そう呼んでいい
かの？



ケルトの太陽神
ルーの別名だったな

「万能」とか
そんな意味だったか



そなたの作った体も
ほれすこぶる良好だ

今は撫子が
調整をしてくれて
おる



そなたに相応しい
名前ではないか
實際そなたは
何でも出来た

驚らしい程に



…そうか



あの体はどうに
本来の壽命を
延べていますので



この体に備え
つけてくれた
ホムンクルスは
どうした？

今は眠らせて
います



巨大な（門）だ

八年前のアレには
及ぶぬが



こうでもせねば
貴方は結界の
張り巡らされた家から
出て来てはくれないで
しょうから

くく……

その為だけ
に――



お父様……!!

あ……お祖母様?

どうして

お祖母様……

やはり来たか





本当に……
お父様なの？

だったら
何で――

帰って来て
くれなかったの？



開邪――

開邪 こやつは
時春ではない

名はイルダーナ
朝比奈家の魔術師よ



そしてわしの
命を狙う敵

そうじやろう？

……ええ



でさ……

朔邪！

少年

朔邪をこちらへ
近付けるで
ないぞ



最後に聞いておくが
この(命)をどうする
つもりなのだ？

始めようか



この規模だと
出てくる妖魔の
数階は三位か
それ以上――

このわしでも
なるべくなら
やり合いたくは
ないぞ



既に真名を
知っておるか



……ふ

ならば
尚のこと

貴方の能力が健在で
あることは先日の件で
分かりました

一刻も早く
封印を

だが家を離れた
ことでなら



迅雷^{じんらい}!!!

うわ……

……ふん

さすがです
人形に憑依した
状態で

しかも本来の体のある
鎌倉からこれだけ離れた
場所にながら
なおこれだけの靈力を
有するとは

わしを家から
引き離せば五分に
やり合えると
思うたか？

その程度で
堪える筈ではないと
思い知れ

!?



あれは――



……



時間がない

あれが外に出て来る前に
終わらせるぞ







だ……だって
お父様が――



朔邪!
今?



それより――

問題ない……
所詮は人形の
体だ



大丈夫ですか
……っけ



あの妖魔を
断れ……少年

お……俺が
ですか？

逃げ……あれが外に
出たら今の
わしの状態では
止められん……

は……はい





怖じ気づくな
振り下ろせ

夜叉王……!?



うわあああ
……っ!!!





……ん



とりあえず
終わったか
……







幕間 第参拾話



あの体からは
宝珠の力は
感じなかった

あれは只の
人形だった

それならイスカを
連れて行ってたなら
倒すことも
出来たんじゃない？

宝珠の埋められていない体を
いくら倒したところで
意味はない

本当に？

それに……おまえが
殺れに命じた
島津家襲撃の件――

あの時
受けた傷の再生に
一ヶ月もかかった

くく……それは
済まなかったね

ほんの余興の
つもりだったん
だけど

あれの胸が
面白い？



面白いね

貴方が僕の命令に
唯々諾々と従うのを
見るのは



すごく
気分がいいよ



兄さん

……これで
準備は整った

次の満月には
完全な（門）が
構築できる

分かってるよ

あの妖魔を
再び召喚し

その力を以て
島津那巳を倒し
宝珠を手に入れ
られたなら――

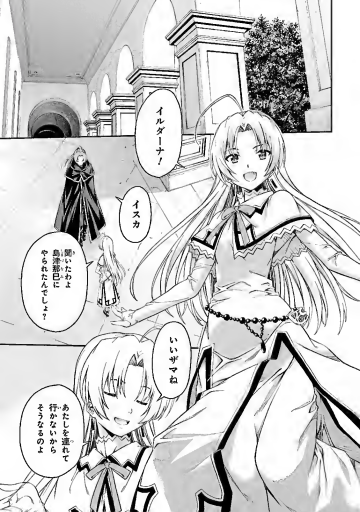
貴方を
「円環蛇の指輪」から
解放してあげる

その時には――

それが亡き父との
契約だったものね

ハッ！





イルダーナ!

イスカ

いざやね

聞いたわよ
島津郡巴に
やられたんでしょ?

あたしを連れて
行かないから
そうなるの上



次からはあたしを
連れて行くことね

島津の連中を
ギタギタにして
やるんだから

体は大丈夫か？

もうすっかりぬ
あれだけ
休んだんだから



待ってなさいよ
島津那巴

次こそは
バラバラに
切り刻んでやる



リリア



はい

パパ



分かりました



イスカ……
あのホームクルスの
動向に注意して

何かあったら
すぐに連絡しなさい



イスカを
「器」として
差し出す気は
あるのかな

……兄さん



次の満月には
完全な「門」を
構築できる……か

だけど
その時――



昨日から
ずっとそんなんじや
腹も減っただろ？

おーい 朝暮
いつまで部屋に
閉じ籠ってんだよ



おっ

……………



ほったいで！

うっさい！！
悪邪がふり廻したから
避てるの！



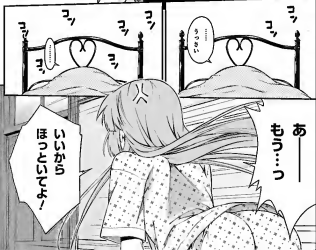
……………

駄目です
悪邪だからって
鍵かけて
出てこなくて…



浅野くん
朝暮は？

あ 先生





ん？

昨日の（きのうの）一撃で（いちげつで）わしを（わしを）超えた（こえた）つもりか？

朔邪（さくじゃ）

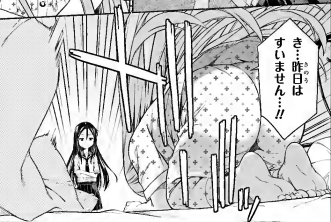
この（この）わしに（わしに）随分（ずいぶん）と偉い（偉い）口を（くちを）きく（きく）ように（ように）なった（な）のう

あ……





お祖母様



き...昨日は
すいません...!!



あの時は頭が
真っ白になって

とにかくお父様を
助けなくちゃ...て

朔邪...



でも――



言った音だ

あれはおまえの
父親ではないと



おまえのせいで
あの体は当分
使い物にならん

この体は靈力を
操るにはよいが
日常生活には
ちと不便での



まあ良い

それよりも朔邪
今回のこと
どう詫びる
つもりだ？

え……？





真一郎さま
おはようございます

ああわしが
遅れて来た

須世崎さんも
来てたんだ



それで お祖母様
あたしは
何をすれば――

撫子

はい







うむ

さすが撫子
サイズは
ぴったりだの

これは――



お……
お祖母様

服……て
これ水着――



水着も
服のうちだろう

でも何で
水着なんか

少年 どうだ
どっちが好きだ？

え……

お相手様



……朝比奈の連中が
これきりということはあるまい

必ずまた何か
仕掛けてくるに
相違ない

それに備え
おまえらを一から
鍛え直すことにした

哲子の話だと
学校も夏休みに
なるようだしの

だからそれと
水着に何の
関係が――



……鎌倉へ
行くのでしょうか？

！



ふふ

わし自ら修行を
みてやるからの



かすみ……

うちが代々
修行の場として
使ってきた島よ

常に強力な境界が
張られていて
普通の人には
見ることも出来ない



お館様

なに あそこなら
彼奴らも
手出しは出来ん

撫子はわしの
体の修復を頼む



まあ
そんな訳で

向こうで着る水着を
少年に選んでもらおうと
思ってたの

は……はあ

まさか……これで
修行やらされる
とか……



お、お







タマ子……
よかったら
私のを着る？

え？

いいの？

ええ



仲良くして
あげて……って

真一郎さまが
おっしゃったから



須世璃
こいつのことは
はっというていいわよ

いよ



そういや前に
そんなこと
言ったっけ

はやく
はやく

ね、ね

ちょっと待って



シンイチロ

あゝバカ
待ちなさい！

タマ子

やっぱ須世璃のじや
サイズ合わない
のよ！

ズン

うんうん

もう……うち
来なさい

やだやだ
シンイチロにもっと
見せるの！

!!?

はな
放せ!!







龍島は相模湾の
沖合に浮かぶ小島であり
代々島津家の修行の場
として使われてきた

常に結界によって
その存在自体が隠され
霊力の無い人間には
ごく稀にうっすらと霞む
島影が見られるのみである

第参拾巻話 修練①











ナナナナナナ



羽を伸ばせと
言われても……

どうすればいいか
分からなくて

ひょっとして海に
来たことない？



須世璃さん
どうしたの？

あ……
真一郎さま



そうだ
確があつちに――

タッ

須世璃さん！



いま海には
何處か

水辺を好む
妖魔もいますので

そっか……



こっち来て
ボール投げて

須世璃さん
こっち



これは……



こ……こ
ですか？

そうそう
そんな感じ



……ふう



真一郎さま

お陰様
私とあー君は
お昼の仕度
行ってきました

だからあー君は
止めろって…

うむ

どうした朝霧
遊ばんのか？

あんまり…
そんな気分じゃ
なくて

そうか

あの…怒って
ないんですか？

この調子のこと

なにか
悩み事か？

ん？
ああ

あの一撃は
なかなか効いたぞ

だいぶ力を
つけたの

す…
すいません





すみません
時間なくて
このくらいしか
作れなくて

そんなこと
ないって

美味しいよ

ありがとうございます
ございます

真一郎様
優しいですね



茉莉：真一郎さまに
褒めてもらえて
良かったわね

え……
すすいません



今度
簡単に作れる料理を
お教えしますので

真一郎様に
褒め御ってあげて
ください





てんで
器うちいじゃ
ねえか

なんだよ



つッ!!



少年
氣を抜くなよ

稽古用の
袋竹刀とはいえ
打ち所が悪ければ
大怪我するぞ

は…はい



少年 おねしは
しばらく阿佐彦と
立ち会って
劍の技を学ぶがよい

おねしの夜叉王は
意思を持つ刀

強い方は刀自身
が知っている

だがおねし自身に
劍術の心得があるに
越したことはない
からの



こいつ強すぎて
俺の稽古に
なんないっスよ

ごめん
頑張って
練習するから
よろしく頼むよ



阿佐彦は
島津流刀術を
学んでおる

おねしの相手には
びつたりだ

のう？



では
わしは戻る

陽が暮れるまで
存分に打ち合おうが
よい



なあ、あんた
よそ者のくせに
何だってそんな
必死なんだよ？



約束……した
からさ

約束……
朝那と？

どんな？



一緒に
さが
捜そう



あー
そうかよ

くそッ



それは……
言えないけど



何か悩み事
でも？

集中を
欠いていますね



まるで
なっていない

十回中
命中が四回

また外れ



私はその命令に
忠実だけです

私はお館様から
あなたの修行の
手伝いをするよう
仰せつかりました



まあ
続けますよ



いつから僕が
悩み相談まで
してくれるように
なったの？



お父様
どうして
あんな事を――

その答えはきつと
八年前にある

お父様とお母様が
姿を消してしまった
あの時の――

知りたい

八年前に
何があったのか



三年ノ契約ノ
書ダ

真名ヲ知ラレバ
主ガ生キテイル限り
縛ラレ続ケル

分かってます

つまりそこまで
式神との関係を
深めることが
おまえの試験よ

式神との
信頼関係なんて
考えたことも
なかった

真一郎さまの力を
お借りすれば
真名を知ることが
できる

でもそれでは
信頼は得られない

お祖母様が仰つたのは
シロが自ら真名を
明かしてくれるような
そんな関係を
築けということ

一休
どうすれば――



茉莉^{まり}よ

はい何^{なに}でしょう
夕飯^{ゆふ飯}のリクエスト
ですか？



ああ
夕飯^{ゆふ飯}は肉^{にく}がいい

焼き肉^{やきにく}でも
食^くわせて
精^{せい}をつけさせると
しよう

それと治癒^{ちよ}の罐^{かん}符^ふを
多^{おほ}めに作^{つく}っておけ

明日^{あした}は
ちとキツイ課題^{かぎ}を
課^かすでの



ふっふっふ

皆^{みな}心^{こころ}して
お^おくがよいぞ

第參拾壹話
—了—





1000
!!

999
...

998
!

第参拾貳話 修練②



意思を持つ刀
……か



おまえも力を
貸してくれよ

俺がこんなこと
してるのも
もっと爾等の力に
なりたいたからなんだ



はあ——
疲れた

朝からきつい
……





朝邪
須世璃

おまえ達には
協力して
ひとつの課題に
あたってもらう



森の中の結界に
一体の妖魔を
解き放った

二人で協力して
捕らえるがよい

朝邪と
協力して……



聖を引っぱらないで
くださいわ 朝さま

!!

それはこっちの
台詞よ……!!

朝邪!

朝から喧嘩は
止せて!!



あ……



それは――

なんであたしに言うのよ

先にふっかけてきたのは須世璃のほうでしょ



ひふし



ほら須世璃さんも謝ったんだから轉移も……な？

わ……分かったわよね
謝ったわね



姉さま
すみません



でも……あの須世璃があつさりあたしに謝るなんて

まさか本気で
妹の……





八年前のこと

お父様とお母様が
いなくなってしまうた
理由を――

お祖母様
……

ん？



あ……

えっと……



あたし……
その

お祖母様に
訊きたいことが――

訊きたいことが――



なんだ？

何か用か？



ちが
違^{ちが}う

きつとあたしに
まだ覚悟が
無^なかったから

——さま

姉^{あね}さま

どうな^なったの
ですか？

あ……

な……なんでも
ない

ちよつと
考え^{かんが}事^{こと}

まるで上^{うへ}の空^{そら}！

その様子^{ようす}では
いま私の言^いったことも
聞^きこえてなかつた
みたいですね

うん

なに？

いま言^いったことって



お母さんから戻ったら
私も姉さまの家に
住みたい……と

あ………



ちーちよつと
なにそれ!?

聞いてないわよ!

だから今
申し上げました

だ……だいたい
お叔母様が
許すわけ――

お母さまのことは
私が認めます



私……

姉さまに
負けたくないから



須世璃

悪いけど
話はあとノ

ええ私も気配を
感じました



驚嚇うんらいなら
最初から読んでない

あー
もうう

今は目の前のことに
集中しないとヤ

集中……!!



姉さま
来ます……!!

あ……

でも……この
感じは――

タマ子^こ!!!?

あんなんで
いるのよ!?

あたしだって
知らないニヤ!!

家で寝てたら
タンボールに押しこまれて
連れてこられたニヤ!

でもおつかない
ガキに言われた
ニヤ

サタヤ^{さん}を
やっつけたら
好きなだけシンイチロと
遊んでいいって

な...っ

お嬢様様...

タマ子...



だから思いっきり
いくニャ!!



島津流し雲雨
霞雨



鎌鼬





ニヤニヤーッ!!



自分から
仕掛けておいて
なに言ってるの!!

タマ子
できるだけ
傷つけないように
するから



ふー二人がかり
なんてすごいニヤ!









シンイチロは
あたしが真うニヤ

おまえ達を
やつつけて



ふー

これなら
おまえ達にも
負けないニヤ



その真一郎さまを
奪うというなら

真一郎さまから
仲良くしてと
言われたけれど

シロ

ス、



きたあ！

真一郎……







真一郎さまは
姉さまの
なんですか？



そうだ
そうだ！

あたしだって
もっとシンイチロと
遊びたいのに

シンイチロは
いつもサクヤサクヤ
って――



それはだって

真一郎は
あたしの……

あたしの



姉さまはずるい
真一郎さまを
一人占めにして

そのくせ真一郎さまの
優しさに甘えて
こき使って



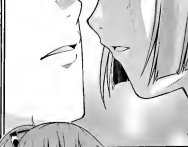


あゝあたしは



あたしは
真一郎しんいちろうがす好き!!!













なにせ——

妾の名は夜叉王

そのような
不毛な争いは
止めにするがよい



主様は他ならぬ
妾のものじやから
のう

え……？



い……一体

力を貸してくれよと
妾を呼んだのは
他ならぬ主様
ではないか



ひ……ひ……と……
今朝刀に当たった
……

真一郎

!!



あんたってば
また――



ち……きょつと
待て

俺は何も

うっさい！
このバカ――ツ!!!

あたっ!?

はははっ
ぞうけぞうけ

あの刻までが
目覚めたか

今後は少年の
良き力になって
くれるであろうよ

笑い事じゃ
ないです
お祖母様！

娯楽にとっては
また恋敵が増えた
...といったところ
かの

あたし...
食けないです





分かりました



まずはその借りを
返してみよ

その時はおまえの
話をしかと
聞いてやろう



あたしだって



姉さま

私に
負けませんから



あたしもう
逃げないから

お父様のことも
お母様のことも
真一郎のことも





番外編







あ……



浅野くん

新明はいいから早くどいて――



そーそのこれは……
先生がはいってるの
知らなくて

洗濯でも
しようかと――





すーすいません
でした

目醒めてるんで
早くタオルを



これはいい
機会かも



待って



ふふ

こんなトコ
朝霧に見られたら
大変ね



は…はい



それより浅野くんこそ
怪我とかしてない？

是…





真一郎は
そんなじや—

な…



なかに感^{かん}結^{けつ}？

自分の彼^{かの}氏が
他の女^{おんな}とイチヤツクのが
許^{ゆる}せない？



それは—



じゃあ何^{なに}なの？

朔邪^{さくじゃ}にとって
浅野^{あさの}くんは





やっぱ無理……!!!



な…なんなんだよ
いきなり

うっさい！
うっさい！

…はあ



—というところで
二人の仲の進展具合を
調べておけること
でした

お館様が相伴されてる
ような校舎には
まだ金く渡しして
おりません

やはりそうか
…まったくウブな
奴らめ

もう少し
時間をかけ
お慮立てする
必要があるかと—





The author

高橋脩

Assistant

Miki

藤林 真

and many others

Design

R design studio



またあんた達は

っ!!!

ニヤ!?

な…なんだ
なんだ!?

7…30 朝飯

ねこましま



猫子に顔を
着せようとい

はいじつと
してで

ん

8…00
真一郎を見送る

おとなしく
してるんだぞ

ふあ…

ふあ…

また眠くなって
きたニヤー

寝る





角川コミックス・エース

ISUCA (5)

著者：高橋博

©Charm TAKAHASHI 2014

2014年6月26日 発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
角川コミックス・エース「ISUCA (5)」
2014年6月26日初版発行

発行者 山下直久
発行所 株式会社KADOKAWA
<http://www.kadokawa.co.jp/>

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745(総機)
編集 角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-8341(編集部)

表下：B design studio

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、転售、譲渡したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を声で放送、読んだりすることも禁止します。
本作品の購入時に添付された利用規約により、複製・転載が認められず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を携帯電話サイトなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
ご利用はリーディングシステムにより、表示の範囲が定められることがあります。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。